

## 平成 27 年 安孫子賞・北農賞受賞者

### 平成 27 年 安孫子賞 (昭和 35 年創設 第 56 回)

#### ○ 亀井 大 殿 (厚沢部町 農業技術指導)

昭和 50 年に北海道大学農業経済学科大学院修士課程を修了、平成 5 年に厚沢部町農林商工課農政係に就職、平成 22 年に退職するまでほぼ一貫して同町農業活性化センターで営農指導に従事した。退職後も平成 27 年まで同センター専門員として技術指導に携わるなど、長年にわたり地域農業の発展に対する貢献は、生産者や関係機関から高く評価されている。中でも、戦略的作物としての新規作物の導入と普及・定着には顕著な業績が認められる。

#### (1) 「立茎アスパラガス」の導入と普及

露地で春期に収穫する体系が一般的だったアスパラガス栽培において、春の収穫後も茎を伸ばしながら秋まで収穫を継続する「立茎栽培」の導入を図り、先進地視察と合わせて品種、施肥量、管理方法などの試験を実施、2t/10a という高い収量を実現した。その成果をもとに農家への技術指導と普及に努め、厚沢部町を含む檜山管内における立茎アスパラガスの栽培面積は平成 26 年には 19ha に達し、販売額も 3 億円近くの基幹作物として定着している。

#### (2) サツマイモ栽培の普及・定着

寒冷地の本道では営利作物として不適とされていたサツマイモについて、町内の農家からの要望を受けて平成 17 年から苗の植え付け時期や定植法などの試験を実施した結果、10a 当たり 2t という府県に劣らない高い収量が得られて、栽培農家と作付面積も増えた。さらにサツマイモを原料とした本格焼酎醸造メーカーの現地工場も稼働して、地元産サツマイモによる本格焼酎の生産が実現されている。

#### (3) ポップコーン商品化への取り組み

平成 24 年、函館ベンチャー企画企業組合からの要請を受け、地域への新規導入作物として爆裂種トウモロコシの栽培試験を開始し、初年度から 10a 当たり 680kg の高収量を得て採算性を確認し、地域での栽培農家を募った。現在は 7 戸の農家で栽培し、順調に販売量を伸ばしている。

#### (4) NATEC および後継者育成への貢献

道内の地域農業振興(技術)センターの連携を目的とし、平成 7 年に設立された地域農業技術センター連絡会議(NATEC)の中心メンバーとして、設立時から積極的に事業に参画するとともに、他地域のセンター職員の相談相手として助言・指導するなど、地域のみならず本道農業へも大きな貢献を果たしてきた。

平成 27 年 北農賞  
(昭和 15 年創設 第 76 回)

○論文：エチレン貯蔵によるバレイショ塊茎の萌芽抑制とエチレンが塊茎に与える影響  
(北農 第 81 卷 第 3 号 掲載)

受賞者名：遠藤千絵、瀧川重信、西中未央、田宮誠司、野田高弘 殿

(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター)

(1) 加工用バレイショの長期貯蔵に際して、越冬後の貯蔵後半に萌芽による減耗が著しいため、現場からは萌芽抑制技術の開発が強く求められていた。著者らはエチレンを利用した萌芽抑制技術の開発に携わり、産学官連携の下でエチレンの萌芽抑制による加工用バレイショの高品質貯蔵技術を確立した。

(2) 本論文は、上記成果の中でエチレンによる萌芽抑制のメカニズムや、エチレンが萌芽抑制以外に塊茎に与える影響などについて報告し、これまで未知であったエチレン貯蔵中のバレイショにおける生理的現象を明らかにするものであり、学術的貢献が大きい。

(3) 本成果は、今後の加工用バレイショ貯蔵技術の一層の高度化や、生食用バレイショの貯蔵技術への応用も考えられ、農業現場への更なる展開が期待される。

○品種育成：黒毛和種種雄牛 「勝早桜5」の育成

受賞者名：酒井稔史、宝寄山裕直、太田 朗、杉本昌仁、南橋 昭、森安 悟、陰山聡一、

内藤 学、青木泰子、鹿島聖志 (地方独立行政法人 道立総研機構 畜産試験場)

(1) 北海道が日本一の黒毛和種産地となるには、黒毛和種繁殖雌牛群の遺伝的改良が不可欠であり、産肉能力のみならず発育能力や体格・体型の優れた牛群に改良するためには基幹種雄牛の利用が必要であることから、その作出が必須として求められていた。

(2) 黒毛和種種雄牛「勝早桜5」は枝肉重量が大きく、最重要形質の脂肪交雑は全国で4位と、道内産種雄牛としては最高位の能力を示した。また子牛の発育が良く、トップクラスの日齢体重を示し、かつ繁殖雌牛となる娘牛の発育および体型審査得点も高く、繁殖雌牛群の改良に向けた期待が大きい。

(3) 既に凍結精液の販売本数が10万本、子牛支場において子牛の販売頭数が2,300頭を超え、現在も増加している。また、各種の家畜共進会や枝肉共励会で最優秀賞を受賞しており、今後の道内繁殖雌牛群の産肉能力および発育・体型の改良に大きく貢献するものと期待されている。

○技能部門：ポータブルトラックスケールの省力・省スペース運搬システムの開発

受賞者名：阿部勝繁、鈴木雄大 殿

(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター研究支援センター)

(1) 農家圃場における現地実証試験では、生産物のサンプルや全収穫物の重量を測定するために

可搬式のトラックスケールを運搬・利用することが必要である。しかし、トラックスケールは重量が重く、運搬に際して広いスペースを要するなど、機動的な運用が困難であった。そのため、省力的でかつ省スペースな収納と運搬法の開発が求められていた。

(2) 受賞者は、一枚の重量が 31Kg ある計量台を多段式に 4 枚収納するキャスター付きの収納ケースを作成、また運搬時に計量台のセンサー部が接触しないためのスペーサーを考案・作成し、4 枚重ねても 25cm の高さに収まる大幅な省スペースを可能とした。

(3) 移動可能な収納キャリアーおよび計量台を積み重ねて運搬できるスペーサーを用いたポータブルトラックスケールの収納・運搬システムの開発によって、バンタイプ乗用車への積載作業を一人で行うことが可能となり、調査に要する人員や車両を効率的に運用することで機動的な現地調査が実施できることとなった。